

U 協 近 畿 通 心

～ U 協 を 使 い 倒 し ま し ょ う ～

【 は じ め に 】

近畿事業推進部の川畑です。台風が過ぎてめっきり秋らしくなってきました。

9月に「パタゴニア創業者 4, 200億円相当の株式環境団体などに寄付」というびっくりするニュースが飛び込んできました。

パタゴニアはアメリカのアウトドア用品の大手企業です。

創業者イボン・シュイナード氏は当初、会社を売却して全額寄付したり、IPO＝新規株式公開に踏み切ったりすることを検討していましたが、売却先によっては環境保護の理念が守られないおそれがあるとして、信託と環境保護団体への寄付を組み合わせる形をとることにしたと説明しています。シュイナード氏は「地球が唯一の株主になった」として利益を環境保護に投じる新たな取り組みだとしています。

社会に還元するってこういうことなのですね。なかなかできないことですね。凄い！

パタゴニアがペットボトルを再利用したフリースを販売したのは1993年です。

同社は、環境負荷の少ない製品づくりや、売上高の1%を自然環境の保全・回復に寄付する「1% for the Planet」、持続可能な良い会社を認証する「Bコープ認証」の取得にいち早く取り組んできました。

ノブレスオブリージュ、日本でもこんな経営者がでてくるといいですね。

写真は清々しい秋空と私の畑で獲れたのトウモロコシ、ピーマン、茄子です。

予定どおり、孫にも送りました。今は秋じゃがいもを3種類育てています。

11月の収穫が楽しみです。毎週妻と畑に通っています。健康にもいいですね。

今月もU協近畿通心を愉しんで頂けると嬉しいです。



秋らしい空。
トウモロコシは、アワノメイガにやられましたが、なんとか収穫できました。

【 ICT用語豆知識 (I o T = I n t e r n e t o f T h i n g s) 】

I o T (= I n t e r n e t o f T h i n g s) ってご存じでしょうか。

I o T とは、従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ（センサー機器、駆動装置（アクチュエーター）、住宅・建物、車、家電製品、電子機器など）がネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みです。

モノがインターネットと接続されることによって、これまで埋もれていたデータをサーバー上で、処理、変換、分析、連携することが可能になります。このようなI o Tの技術を活用することによって、これまでに無かったより高い価値やサービスを生み出すことが可能になります。

また、センサーやデバイスといった機器、通信インフラ、クラウドサービスの高性能化、低価格化が追い風になり、I o Tの導入がより身近なものになってきています。いろんな利用をされていますが、いくつかその例をご紹介します。

皆さんの周りにはどんなI o Tがありますか。探してみてください。身近にありますね。

○工場のI o T <https://xtech.nikkei.com/it/atcl/column/17/022000037/022000002/>

○お店のI o T <https://ebilab.jp/service/>

○林業のI o T <https://iotnews.jp/archives/86039>

○漁業のI o T センサーブイとAI画像解析によるまぐろの管理

○健康状態I o T F i t b i tによる健康状態の可視化と管理・改善

○酪農のI o T <https://farmnote.jp/information/2016/000852.html>

○農業のI o T 「みどりクラウド」によるビニールハウスのモニタリング

○オフィスのI o T 見えない居室空間の環境や動線をデジタル化

○街全体のI o T バルセロナシティのスマートサービス

【ユーザ協会の得意技！ こういう蓄積・ノウハウがあります。岡部達昭先生編】

先月は第96回「書かずに話そう」（2022.3.15）をご紹介しました。
いかがだったでしょうか。今回は第97回「多すぎるカタカナ語」をご紹介します。

3度目の初夏を迎えたこのコロナ社会を、皆さんはどうお感じでしょうか。オンラインシステム、ウェブ会議システムの普及、テレワーク導入と家庭の変質、逼塞（ひっそく）状態で苦しむ経済、デジタル社会の急成長と「話し言葉」の軽視、希薄になる人間関係と孤独化。大雑把にまとめればこうしたことでしょうか。その中で皆さんも、コロナ禍以前と比べれば、多くの不便と我慢を強いられていることでしょうか。行きたいところに行けない、会いたい人にも会えない、ストレスは溜まる一方かと思えます。今回は、その激変の中での生き方、問題点を考えます。

自然と共生する生き物

今の地球上には5,000万種の生き物がいるのだそうです。それらはその時々環境に順応し、自然と共生しながら変化し生き残ってきました。そこには超能力としか言えない不思議な力を見るのです。人間だけは、神の摂理に逆らい、自然を破壊しながらも、圧倒的な頭脳のお陰をもって、生き物の王者として君臨しています。

あらゆる動物は、自然の中に放り出されても、本能的な方向感覚を持っています。多くの渡り鳥も鮭も海亀も、長い旅を経て、自分たちの命をつなぐ山や川、浜辺に確実に戻ってきます。餌や水がどこにあり、何が食べられ何が危険なのかを見分ける術を身につけています。そのことを考えると、人間はあまりにも無力です。

心配な人間という生き物

コミュニケーション力をテーマに考えてきた本シリーズで、なぜ自然と生き物の世界の話を持ち出したかと言いますと、近年の驚異的な科学技術の進歩に刮目（かつもく※1）しながらも、それについて行けない人間というソフトウェアの遅れが気になるからです。コロナ禍が完全に終息する頃には、デジタル社会、ネット社会、AI、IoT、DXの社会は一段と急成長、急拡大していると思います。

自動運転車が走りまわる道路、ドローンが飛び交う空。数年後に映し出されるであろう近未来社会の風景は、もう以前には戻ることはいけません。

ただ、意気揚々とデジタル社会を謳歌している若い世代の生き方が、羨ましくもありますが心配でもあるのです。

過去があって未来がある

進歩は必ず過去の下敷きがあって成し遂げられます。ところが今の進歩は、先に壮大な未来の設計図を描いて、いきなりそれを実現させているように思います。歴史の努力の上に、営々と築かれてきた過去の蓄積は、ボタン一つで消去されてしまうのです。

代表的な例が日本語です。今の日本語は母なる川の流れを忘れ、IT語が幅を利かせています。

ネット族の奇妙な言葉も跋扈（ばっこ※2）しています。**その国の文化をつくるのはその国の言葉です。高度な科学技術も、言葉が生み出しているのです。**

日本という国は、記録を辿れる3千年の歴史を見ても、外国の侵略ですべてを失うことはありませんでした。美しい島国の自然の中で、その優れた文化も日本語も守られてきたのです。

それがここに来て、押し寄せるカタカナ語の怒涛に、簡単に身を任せてしまいました。

短いLINEやSNSでの会話では、複雑な内容や豊かな情感を伝える文は作れません。**その力をつけるには名文を読むことにつきまします。**そしてもう一つ、**つながり合う会話力を身につけるには「電話」に優るものはないと思います。**電話は単なる伝達手段ではありません。**IT化社会にあって、美しい日本語表現力を守るかけがえのないツールなのです。**

カタカナ語使用には配慮を

しかしIT系の人に限らず、ビジネスに携わるほとんどの人が、この傾向にさして疑問を抱くことなく、むしろ得々（とくとく※3）としてカタカナ語を使っているのは誠に残念です。

それにしても、今私たちの回りにはカタカナ語が多すぎます。あらゆる分野の商品名、各種の取り扱い説明書、料理や菓子の名前、テレビ番組や映画の題名、スポーツやゲーム用語、雑誌や本の題名、公文書の類まで、カタカナ文字の氾濫は目に余ります。

ある官庁の公文書を数えたら、全体の3分の1強が横文字、カタカナ文字だったという報告を読んだことがあります。

翻って電話対応でも、科学技術が進めば、横文字はさらに増えるでしょう。IT化社会に安易に順応することなく、適切な日本語に置き換える。あるいは必要なカタカナ語を選んで使う配慮が必要でしょう。**「言葉は伝わってこそ言葉」**なのですから。

※1 刮目かつもく・・・目をこすって、よく見ること。注意して見ること。

※2 跋扈ばっこ・・・思うままにのさばること。

※3 得々とくとく・・・得意そうさま。

【ユーザ協会の得意技！ こんなICTの紹介をしています。へ～え そうなんだ。】

今回は、「**ICTを学ぼう《最終回》**」(2022.07.15)をご紹介します。早いものでもう最終回なんですね。ほんと早いんですね。

2021年5月号から連載してきた“ICTの「へえ～そうなんだ!?””は、今回が最終回です。これまで様々な情報をお届けしてきましたが、その間にも技術は進歩し、次々と新しいサービスが生まれています。そのスピードに追いついていくためには、しっかり基礎知識を身につけて、学び続ける姿勢が大切です。

そこでおすすめなのが、「資格・検定」です。ICT関連の資格・検定はたくさんあり、知りたいと思う分野が含まれている資格・検定を探すだけでも学びがあります。

資格・検定試験のススメ

ICTに関わらず、初めての分野に触れる時には、まずは本やインターネットで情報収集するところから始める人も多いでしょう。

しかし、それだけではどうしても情報が断片的になってしまい、部分的に理解ができて、全体的な繋がりが捉えきれなくなりがちです。

そこで、資格・検定の勉強、そして試験に挑戦することをおすすめします。

資格・検定試験に向けて学習することで、一つひとつの知識が関連づけられ、体系立てて習得することができます。

また、資格・検定は難易度や分野ごとに級が分かれているため、無理なく習得できるようにプログラムされています。

“**ICTプロフィシエンシー検定4級**”、“**日商PC検定試験**”など、**基礎編・入門編のグレードばかりを選んで、さまざまな種類の試験に挑戦するのも効果的です。**

基礎から応用まで幅広く学べる公的資格

代表的なのは、経済産業省が実施する**情報処理技術者試験**です。この試験には、たくさんの種類がありますが、その中でも網羅的に基本から学べるのが「**ITパスポート試験**」です。

一見、難しく専門的な試験のようですが、日常的にパソコンを使って業務をしている人々が共通して備えておくべき基礎知識を中心として出題されるため、いろいろな人が挑戦しやすい試験です。

IT技術ばかりでなく、経営や管理に関する出題もあり、ITが経営や業務の中でどのように活かされているかを考えるきっかけにもなります。

専門性を高める民間資格

また、マイクロソフト社、オラクル社、シスコ社、NTTコミュニケーションズ社など、ICTを支えるソフトウェアやハードウェア、ネットワークサービスを提供している企業が、**製品別に技術者や利用者を対象とした資格制度を設けています**。特定の製品について知識を身につけたい場合には、各社が実施している資格を取得するとよいでしょう。

このように、企業が資格・検定を実施しているのは、ICT分野ならではの特徴といえます。

モバイルに特化して学べる検定

まだまだ進化が激しいモバイル通信分野にも、基礎知識が得られる検定試験があります。その一つが、「**MCP Cモバイル技術基礎検定試験**」です。

他にも、「**MCP Cスマートフォン・モバイル実務検定試験**」「**MCP Cモバイルシステム技術検定試験**」など、モバイルシステムに関するさまざまな分野にあわせて検定試験が実施されています。

モバイル製品は今や生活の一部となり、なくてはならないものになっています。

自らが一生活者として、安心安全に、そして賢く使うために学ぶのと同時に、周りの人にアドバイスやサポートができる人になれるよう学ぶのもよいかもしれません。

とりわけ、**高齢者のスマートフォン利用のサポートは急務**です。

「**スマートシニア地域モバイルサポーター検定試験**」では、スマートフォンの電源のON/OFFから始めて、少しずつレベルアップしていき、最上位級ではスマートフォンの使い方をシニアに向けて指導できる指導者として認定されます。

今、政府はデジタル化・デジタル社会の実現を成長戦略の一つとして掲げています。

それに向かって、**誰もがデジタル化のメリットを享受できるよう、皆で学んでいきましょう。**

【経営参考情報：稲盛和夫さんに刺激を頂きました。】

私が尊敬する、鹿児島県の先達者の一人である稲盛和夫氏が2022年8月、享年90才でお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。

稲盛さんから色々なことを学びましたが、大きな夢を描きそれを実現しようとする時、「**動機善なりや、私心なかりしか**」というのが強く心に残っています。

稲盛さんは1959年に28名だった町工場を、材料・部品の生産から太陽光発電、通信機器に至るまで幅広く事業を展開され、全世界に約70,000名の社員を有し、売上高では1兆円を超えるグローバル企業へと導かれました。また第二電電（KDD）設立やJAL再建でその卓越した人間力・経営力を発揮されました。

そんな京セラの原点は、**人の心をベースとする経営**から生まれた「**京セラフィロソフィ**」と「**アメーバ経営**」の実践は有名ですね。また、郷土鹿児島県の国分、川内、隼人に工場を持ってきてくださいました。鹿児島県人にとってはとてもありがたいことです。

一代で京セラをここまで持ってこられた郷土愛溢れる偉大な経営者でした。

稲盛さんは、鹿児島県人会の会長も長く務められ、毎年鹿児島ファンデーの開催にもご尽力いただきました。稲盛さんといえば、知らない人がいないほど有名な経営者ですね。

私が稲盛さんのご講演を聴いたのは、大前経営塾で学んでいた10年前でした。

その講演は、2003年のものでしたから、いまから19年前の講演になります。

稲盛さんが起業されたのは27歳。資金も思想も、事業家になろうという意識さえなかったというマイナスからのスタート。いかにして優良企業をつくり育てあげていったかを語っていらっしゃいました。経営者はもちろん、起業するかたにも稲盛神話誕生の秘話が自らの口で語られた講演ですので聴いて欲しい講演です。あの時に沢山刺激をいただいたのを今でも覚えています。

今回はそのことをお伝えします。皆さんの何かお役立てれば嬉しいです。

■経営の原点

1、事業の目的、意識を明確にする。 公明正大で大義名分のある高い目標をたてる。

<京セラの経営理念> 稲盛和夫の技術を問う場(設立当初)

→ 全従業員の物心両面の幸福を追求する同時に人類、社会の進歩発展に貢献すること。

2、具体的な目標を立てる 立てた目標は常に社員と共有する。

- ・ 具体的な数値目標は、会社全体だけでなく、ブレイクダウンする。
- ・ 1年計画は立てるが、長期計画は立てたことがない。長期計画を立ててもコロコロ変わるようでは従業員から信頼されなくなる。

3、強烈な願望を心に抱く。

目標達成のためには、潜在意識に到達するほどの強く持続した願望をもつこと。

- ・ 思いの強弱により実現度合いが違うが、「思ったことは実現する」と思っている。
- ・ これに気づいたのは、松下幸之助さんの講演会での話。
→ ある京都の講演でダム式経営について松下幸之助さんが話された時に「どうしたらそれができるのか」と京都のぼんさんの質問に幸之助さんは「思わなきゃいけまへんな」と。それを聴いたぼんさんは、何や答えが知りたいのにと会場は笑いで終了。
でも稲盛さんは、頭に電撃が走り、そうや思わんないかんのやな。思いが足りないのだと。同じ話を聴いても凄い人はここが違いますね。
- ・ 寝ても覚めても、思っていると潜在意識に入っていくって、他の仕事をしている時も思った方向に動いていく。

4、誰にも負けない努力をする。地道な仕事を一步一步、堅実に弛まぬ努力を。

- ・ どんなに偉大なことも地道な一步一步の積み重ねでしか、偉業というものは成し得られるものではない。
- ・ 何でもそうだが、継続するということが一番大事だ。

5、売上を最大限に、経費を最小に。

- ・ 京セラが高収益会社になった理由はこれだ。
- ・ 与えられた条件の中で、どう経費を安くして、利益を出すか。
- ・ 工程改善や経費削減の取り組みが京都の他の企業へ伝播していった。

【お役立ち情報：21世紀のリーダーシップ 偏差値教育外で磨かれる変革者とは】

意外なルートから起業して厳しい世の中で面白い活躍をしている起業家4名に、波瀾万丈の物語を語っていただくシリーズを受講しました。大変元気をいただきました。

21世紀のリーダーシップはこういう方が発揮していくのでしょうか。今回は、2人目として株式会社TBM代表取締役CEO山崎敦義氏の話をご紹介します。

あとの2名は、次回以降ご紹介します。

LIMEXという日本初の革新素材をご存じでしょうか。

LIMEXは、石灰石を主原料として紙やプラスチックの代替となり、持続可能な社会に貢献する**日本発の革新的新素材として世界中から注目**されています。

山崎さんも凄い方です。

HPはここです。 <https://tb-m.com/limex/about/>

TBM代表取締役CEOの山崎敦義氏は、「地球規模のサステナビリティ革命への挑戦～脱炭素社会に資する新素材の普及と資源循環モデルの実現に向けて～」というテーマで、偏差値教育外で培った現場勘で自らの未来を切り開き、資源循環型社会を目指して突き進む変革者です。TBM社が自社開発素材「**LIMEX**」などの利用拡大によって実現を目指す資源循環型社会変革に取り組まれています。

山崎さんは、1973年大阪府岸和田市に生まれ、中学卒業後は高校へ進学せず大工の見習いになり、4年ほど工務店で大工の仕事に就かれました。

1993年、20歳の時に友人と二人で中古車販売会社を起業され、その後会社を友人に譲り、先輩が経営していた建設会社取締役に就任。約5年間営業に携われました。

2008年、台湾の企業が製造していた「**ストーンペーパー**」に出会い、日本への輸入・販売を行う事業を展開されていました。

2011年、「**ストーンペーパー**」に似た素材を自社開発しようと思い、**株式会社TBM**を設立されました。

台湾の会社が改善要望に応じてくれなかったため、TBMは**同社独自の技術により開発した「LIMEX（ライメックス）」**を製造販売。

環境配慮型の素材開発および製品の製造・販売、資源循環を促進する事業を展開しています。

「**LIMEX**」は、地球上に豊富に存在する石灰石を主原料とする無機フィラー分散系の複合材料で、紙代替・プラスチック代替素材としてあらゆる場面で利用用途が拡大しています。

例えば、紙代替としてはプロネクサス社の統合報告書、吉野家のメニュー表、日本能率協会マネジメントセンターが発行する手帳「**NOLTY**」の表紙、**Denny's**のPOPなどに採用されています。

プラスチック代替としては、ヨドバシカメラや羽田空港で使用されている買い物袋、三菱鉛筆の素材、アイリスオーヤマの建築資材などとして利活用が広がりつつあります。

既に国内の企業や自治体など、8,000社以上で、TBM社の素材・製品が導入されています。

同社製品の利用拡大に伴い、ファブレスによる生産体制の拡充や、中国のポンプメーカー**CYZ**、モンゴル国家開発庁、インドネシアの**PT.Kemas Indah Maju**社、韓国の**SKグループ**など、各国で有力なパートナーとのアライアンスを実現し、グローバル展開を加速しています。「**LIMEX**」は、日本規格協会により、無機成分を主成分とする無機・有機複合マテリアルとして**JSA規格**が制定されました。

廃プラスチック、再生材料などの利用を促進し、資源循環型の社会を目指すTBM社の発展に期待です。

SDGsにぴったりの成長が愉しみな企業です。

日本発ですから、大きく育てて欲しいですね。

<原稿大募集中！ご紹介します。>

あなたの知識や経験等が他の会員さんのお役に立てば、嬉しいですね。
いつでも待ってま～す。写真も大歓迎です。

送り先：f.kawabata@jtua.or.jp（川畑）までファイル（A4）を送ってください。

オンライン
セミナー

サイバー攻撃の脅威と セキュリティ対策の 重要性とポイントについて

特別
講演

「事例から学ぶEmotet対策と
個人レベルのセキュリティ対策」

大屋 一氏

株式会社ブロードテック 代表取締役

1994年に日本でいち早くインターネットビジネスに着目し、事業化を果たす。

以降、ITを活用したブランドマーケティング戦略を得意とし、情報セキュリティ対策が経営戦略に必須となってきた近年は、JCPG認定プライバシーコンサルタントとして個人情報取扱事業者が抱えるビジネスリスクをどう管理するか、マネジメントシステムの導入や第三者認証の取得支援も含めて実践。講演やセミナーでは、事例を紹介しながら、主にビジネスマンや商店主を対象に、情報収集と活用のモラル、リテラシーを高めることで情報化社会を勝ち抜く戦略を提言。

サイバー攻撃は日々進化しており、**近年では特にEmotetの被害が急増**しています。

本講演では、感染した場合の情報漏洩等事例を紹介しつつ、Emotet被害を未然に防ぐためにどのような対策が必要か、また個人レベルではどのような対策ができるのかといった視点を交え、具体的にお伝え致します。

参加無料

日時

2022年10月28日(金) 13:30~15:30

基調
講演

『サイバー空間における脅威と情勢』 警視庁サイバーセキュリティ対策本部
担当官

- ①警察庁広報資料「令和4年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」をもとに、目に見えないサイバー空間に存在するリスク(主にランサムウェアについて)をお伝えします。
- ②マルウェア「Emotet(エモテット)」が猛威を奮っていますが、メールによるサイバー攻撃では、実際にどのような被害を受けてしまうのかをデモンストレーションにより視覚的にも恐ろしさを体感していただけます。

お申し込みは
こちらから

お申し込み締切り ▶ 10月28日(金) 12:00

お申し込みフォーム ▶ <https://form.jtua-seminar.jp/fgen/S15915181/>



視聴方法

Zoomウェビナーによる配信 (視聴URLはお申し込みフォームにご記入いただいたメールアドレスにご案内します)

主催 公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会 本部・東京事業推進部 / 共催 東日本電信電話株式会社・西日本電信電話株式会社 / 後援 日本商工会議所

お問い合わせ先

公益財団法人 日本電信電話ユーザ協会 セミナー事務局 E-mail: jtua-seminar@jtua.or.jp

ユーザ協会では、ICT活用事例や電話対応教育メニュー等の情報を積極的に発信しております。

本協会の趣旨にご賛同いただき、最新のICT情報等を更にお知りになりたい方は、是非この機会に協会への入会をお願いいたします。

入会には年会費がかかります。年会費の額はユーザ協会各支部までお問い合わせください。

ユーザ協会



セキュリティの最新情報も
アップデートできます。
支部HPにて絶賛募集中！

あの講話がこの価格で聞けるなんて。

ユーザ協会
限定特別価格

BBT研修プログラムはコチラから



撮影/大田真三(小学館)

この値段でこのパフォーマンスにびっくりです。

あの大前研一さん率いるBBTの研修がユーザ協会会員様特典として利用いただけるようになりました。

BBTのコンテンツの中から、協会会員様のために特に選びました。
「見て学ぶ」と「参加して学ぶ」があります。

見て学ぶ

ビジネス講義映像

ブロードバンド・ラーニング(BBL)

詳細・お申込みはこちら



<経営者講義 - 19 講座>

定価33,000円(税込)を当協会
会員様は**1割引29,700円(税込)**で
ご視聴いただけます。

どの講座も大前研一さんの講演以外に業界の最先端に行く経営者の
講演が盛りだくさん！ これからの経営のヒントがたくさんあります。

参加して学ぶ

詳細・お申込みはこちら

5,500円(税込)
でご視聴いただけます。



みんなで脳に汗をかこう！！

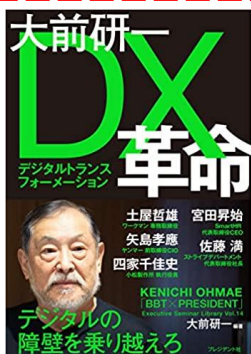
ビジネスアウトプットGYM

いつでも学べる動画で「インプット」し、
LIVEトレーニングで「アウトプット」

まるでスポーツジムに通う感覚で、
ビジネススキルをオンラインで鍛える

詳細はこちら！

<https://wstg-bbt.staging-bbt757.com/corporate/sd/063jtua/index.html>



<近畿 6 支部限定プレゼント>

新規ご入会様、既存会員様

本特典ご利用で「DX革命(大前研一著)」を
プレゼントいたします！

後日、連絡責任者様へ送付させていただきます。